

Department of Pediatrics, Tsukiyama Hospital

月山病院小児科

住所 〒640-8269 和歌山市小松原通り1-3 電話 073-423-2300 FAX 073-423-4000
 E-mail tsuki423@oregano.ocn.ne.jp
 ホームページ http://www4.ocn.ne.jp/~tsuki-hp/ (-はキ-ホ-ド-の@の上の^をshiftで変換)

月山病院小児科では子供達に有益な情報をお知らせするために月一回院内報を発行しております

小児科境界領域

小児科は本来は小児内科と言われる科ですが、小児期の外科、耳鼻科、眼科、整形外科、皮膚科などの科との境界とされる疾患の診察機会が非常に多い科だと思います。今月号から小児科境界領域のお話を連載させていただきます。今月号は最も多いと思われる中耳炎についてお話しします。

中耳炎

中耳炎は子供の病気のなかでも頻度の高いものとされています。初期には中耳炎の症状がないため小児科を受診されることも多い疾患です。中耳とは鼓膜の奥に隠れている部屋のことです。外からは見えませんが、中耳は喉の奥と耳管という管でつながっており、この管がなんらかの原因でつまってしまうことで中耳炎が引き起こされます。子供の中耳炎は大きく分けて次の2種類があります。

急性化膿性中耳炎

ばい菌によって中耳や鼓膜に炎症をきたす疾患で発熱、耳の痛みや不機嫌をきたします。ひどくなると耳だれ（耳の穴から液がでてくること）を認めます。普通に中耳炎といわれたらこちらの方をさします。症状が熱だけのこともあり、初期には「かぜ」との区別が付きにくい「かぜ」に合併することも多く注意が必要です。診断は耳鏡（耳鏡の種類はいろいろ）を使用して耳の穴から鼓膜の状態を見ることによります。治療は抗生剤や抗炎症剤を飲んでいただくことが多いのですが、みみだれがあった場合などは鼓膜に穴をあけてもらって膿みを出したり点耳薬を使用するなどの処置が必要です。

滲出性中耳炎

耳に水がたまっていると言われる病気で、この場合初期には症状がでませんが、放置すると難聴になることがあります。注意が必要です。熱もないけれどよく耳たぶをさわったり、聞こえが悪いと感じた時はこの病気の可能性があります。鼓膜内に水がたまると鼓膜が厚くなる場合があり、鼓膜の検査などが必要なことや鼓膜の切開などの処置が必要なものもあり、耳鼻科での加療が望ましいと思います。ただし耳鼻科の先生の中でも治療方針の決定には様々な意見があり、医療機関で治療方針が異なることもあります。

治療 抗生剤や抗炎症剤を長め（2週間程度）に飲んでいただくのが基本ですが、なかなか治りません、また繰り返し治すことも多く場合によっては鼓膜にチューブを留置することもあります。体格が大きくなれば耳管も自然に太くなり小学校入学時には軽快するのが普通です。

今月の小児科診察予定

- 9月3日(火)、9月17日(火)、10月1日(火)は午後から大学診察のため時間外対応できません
- 9月5日(木)は保健所勤務のため13時から17時まで休診です
- 9月7日(土)夜診および9月8日(日)午前診は近畿大小児科守脇先生の代診となります
- 9月9日(月)、9月10日(火)は私用で休診になります
- 9月7日から9月11日までは時間外対応できません [9月8日(日)の午後からの時間外も対応できません]

新連載：今月はこんな月

9月はこんな月

9月の初旬は一年の中で最も感染症が少なくなり病気の子どもも少なくなる時期です。これは学校や幼稚園といった集団生活が夏休みになり、感染症のうつしあい少なくなっているためです。しかし、この時期は精神的には少しづつ時期でもあります。夏休みに生活習慣も変わり夜更かしになってるかもしれませんし友達関係も変化しているかもしれません、2学期は勉強もサポートがかかりはじめるし、運動会も大変です。ですから保護者のかたは体の面だけでなく、精神的な面を少し気をつけてあげてください。中旬から下旬にかけては気温の変動が激しくなり喘息の患者さんの調子がわるくなり始めます。毎年この時期に悪化するかたは早めに受診をして予防するのもいいかもしれませんね。



今月の顔
輝美ちゃんはちょっと照れ気味

バックナンバー

申し出ていただければカラーコピーを差し上げています

特集	感染症豆知識	赤ちゃんの処置
第1号 インフルエンザ予防接種		
第2号 発熱時処置		
第3号 熱性痙攣		
第4号 吐き下し		
第5号 インフルエンザ		
第6号 喘鳴		
第7号 喘息の予防		
第8号 タバコを食べた		鼻づまり
第9号 頭をうった	麻疹	便秘
第10号 小児の皮膚疾患	水痘	赤ちゃんの発熱
第11号 夏のスキンケア	手足口病	湿疹
第12号 アトピー性皮膚炎(前編)	溶連菌感染症	夜泣き
第13号 アトピー性皮膚炎(後編)	おたふくかぜ	吐く
第14号 おっぱい	百日咳	かんしゃくもち
第15号 熱の頻度と対策	突発性発疹症	あおむけ寝とうつぶせ寝
第16号 インフルエンザの診断と薬	ロタウイルス腸炎	赤ちゃんの予防接種
第17号 インフルエンザの合併症	風疹	室温と体温
第18号 花粉対策	リンゴ病	でべそ
第19号 おしっこ異常	アデノウイルス感染症	おちんちん
第20号 おしっこ異常	反復性耳下腺炎	便の色
第21号 扁桃腺炎とアデノイド	単純ヘルペス感染症	母斑(あざ)
第22号 夏かぜ	クループ症候群	離乳食とフォローアップミルク
第23号 虫さされと麻疹	水イボ	おむつかぶれ

連載！赤ちゃんの処置 肥満？

赤ちゃんの体重は生後3ヵ月で出生時の倍の6kg、1歳で3倍の9kgとなります(詳しくは母子手帳の中の体重曲線表を見て下さい)一部体重増加が早い子がいます。肥満ではないか、将来まで影響するのではないかと心配される方も多いのですが、一歳未満の体型が将来に影響することはなく、だいたいは歩行が可能となると自然に軽快するのが普通で心配はいりません、ただし極端に重い場合(平均体重の1.5倍以上体重がある場合)や2歳を過ぎてからも極端な体重増加が続く場合は注意が必要です。将来の肥満は幼児期(だいたい3-6歳)の肥満が関係すると言われていて、このころまでに食生活の習慣がついてしまうため、小学校にはいってからの生活を改めようとしてもなかなか困難で肥満傾向のままになってしまうのです。子供に減量は必要ありませんが小学校入学までには身長にみあった体重になるように食生活を改善しましょう。